

矢畑地区防災活動良好事例紹介・課題

令和5年6月16日

矢畑自主防災会

1. 概要

矢畑地区の最近数年の防災活動における事例紹介、及び課題についてまとめました。

2. 良好事例

1) 矢畑防災マニュアルの作成・活用展開

本年5月に矢畑防災マニュアルを作成し、現在活用展開中です。

①矢畑防災マニュアルは茅ヶ崎市ホームページに掲載済み。6月全世帯に広報済み。(回覧版)

②活用例は次のとおり。

- ・理事会にて理事に配付し説明会を実施。
- ・隣組長会議(全組長出席)にて組長に配付し説明会を実施。
- ・防災各班会議(全防災リーダー出席)にて防災リーダーに配布し説明会を実施。(7月実施予定)
- ・希望する部会にて参加者に配布し説明会実施。(9月の「ほっとクラブ」にて実施予定)

2) 連絡網アプリ「きずなネット」を用いた安否確認の導入

- ・本年5月に連絡網アプリ「きずなネット」を導入済み。これを活用してインターネットによる安否確認にトライ予定。(11月実施予定)
- ・対象は全世帯とし、現在登録案内中。

3. 課題

1) 地域住民の防災訓練への参加率が低い

防災訓練への参加率を、安否確認訓練の「黄色いハチマキ」掲出率で評価していますが、令和4年に行われた防災訓練では、「黄色いハチマキ」掲出率は全世帯に対して47%でした。

住民の防災意識をより向上させ、防災訓練への参加率を向上させたいと考えています。

(対策案)

- ①防災マニュアルを広報し、住民の防災意識を向上させる。
- ②きずなネットへの登録、きずなネットによる安否確認訓練への参加を通じて、住民の防災意識を向上させる。
- ③矢畑消防団に協力を依頼し、防災訓練前日に開催について巡回放送を実施し、開催日のリマインドを行う。

2) 防災リーダー(または防災研修受講者)が年々減少、定常的に増員できていない。

R1:39人、R2:39人、R3:32人、R4:31人、R5:31人

防災リーダーは定常的に増員しないと、高齢化により実質的に活動できる防災リーダーが減少していく懸念があります。市の養成研修が年1回(2月)に減少したことも懸念材料です。

(対策案)

- ①全組長、防災リーダーが出席し副班長を決める防災各班会議において、全組長に防災マニュアルを配布し、防災における組長・副班長の役割説明を行い防災意識の向上を図る。
- ②副班長には「防災リーダー養成研修」の受講を求める。

以上